

位置と地勢

松江市は島根県の東部に位置しており、東に安来市、南に雲南市、西に出雲市と接しています。

中心部は沖積地に発達した城下町で東西に中海と宍道湖をひかえ、市街地は大橋川で南と北に2分されています。大山隠岐国立公園の一部に指定されている島根半島は北山山地を越えて日本海に面し複雑なリアス式海岸をもっており、南部は丘陵の多い農村地帯が大部分を占めています。美しい自然をもつ反面、季節風など災害に対する自然環境は必ずしもよいとは言えず、過去には大火・水害など幾多の災害をもたらしています。

また、昭和26年に国際文化観光都市に指定されており、古社・古墳・城下町の遺構としての文化財も多く残っています。

署所配置図



面積・人口及び世帯数

(令和7年4月1日現在)

市名	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯数 (世帯)
松江市	572.96	193,135	91,724

沿 革

藩政時代、松江城下にも消防制度はあったが、その起源については知ることができない。

文化 8年	この年になされた防火定の改正により竜吐水組4組のほか、いろは組8組、総勢253人に及ぶと記録に残っている。
明治22年 4月 1日	市制施行後の松江市は、同年8月、松江市消防規則と同施行手続きを制定し、4番組制の松江市消防組を編成した。
明治27年 6月	勅令により4番組制は1組に統轄され、市内を橋南、橋北の2部制にした。
明治35年 9月	松江市初の蒸気ポンプを1台購入し配置した。
大正 5年11月	組織の大改正により5部制とした。以来この組織は昭和9年4月に7部制を採用するまで継続した。
大正12年 5月	松江市初の手引ガソリンポンプ2台、同年9月には消防ポンプ自動車（米国製）を1台購入し配置した。
昭和 9年12月 1日	津田村合併により10部制とし、総員216人となる。
昭和14年 2月11日	川津村が合併した。
4月 1日	警防団令施行により、松江市警防団に改組、本部及び7分団総員865人となる。
11月 1日	朝酌村が合併した。
昭和22年 9月 1日	消防団令施行により、松江市消防団として再発足したが、このとき従来の8分団1,191人を8分団550人に改めた。
昭和23年 7月13日	松江市初の水槽付消防ポンプ自動車を1台購入し、団本部に配置した。
10月10日	法吉村の合併により9分団650人となる。 消防ポンプ自動車 7台 手引動力ポンプ 5台 腕用ポンプ 16台
昭和24年 4月 1日	殿町124番地市役所総務課内に松江市消防本部が設置され、職員は市吏員2人、運転員10人で業務開始した。
5月21日	松江、八東地区（1市3町22村）消防相互応援協定を締結した。
10月19日	松江市職員定数条例が制定され、消防職員定数12人、消防団員定数550人と定まる。
昭和25年 3月29日	消防ポンプ自動車1台を購入し、消防本部に配置した。
9月10日	水槽付消防ポンプ自動車1台を購入し、消防本部に配置した。
10月 1日	竹矢、乃木両村の合併により、消防団は11分団となる。
昭和26年 1月 1日	松江市消防署を設置した。 消防職員43人をもって新しい消防体制が確立した。 水槽付消防ポンプ自動車 2台 消防ポンプ自動車 1台

当時、消防団は11分団554人であった。

消防ポンプ自動車	6台
三輪消防ポンプ自動車	1台
手引動力ポンプ	9台
腕用ポンプ	25台

- 4月 1日 大庭、忌部両村の合併により、消防団は13分団、団員定数816人となる。
消防職員の定数55人となる。
- 8月 2日 松江市と出雲市間で消防相互応援協定を締結した。
- 昭和27年10月30日 松江市と八雲村間で消防応援協定を締結した。
- 12月 農村部分団の消防力強化のため、小型動力ポンプを11台購入し、消防署及び農村部分団に配置した。
- 昭和28年 4月 1日 生馬、持田両村が合併した。
- 11月20日 松江市危険物保安協会が設立された。
- 昭和29年 4月 7日 松江市消防協会が設立された。
- 12月11日 松江市危険物保安協会から150ポンドの大型ドライケミカル消火器1台、及び20ポンド5本、4ポンド2本の消火器の寄贈を受け消防ポンプ自動車を改装し、これに消火器・投光器及び拡声装置を積載して広報車を兼ねた化学車が誕生した。
- 昭和30年 4月 1日 本庄、古江両村の合併により消防団員定数965人となる。
- 5月18日 県庁前の旧松江市警察署庁舎を改築し、消防本部、消防署、城東分団を移転し、即日業務を開始した。
- 5月30日 消防ポンプ自動車を1台購入し、消防署に配置した。
- 昭和31年 3月16日 中短波消防無線（基地局1、移動局）を配置し、運用開始した。
- 4月 7日 第2回県消防操法訓練大会（温泉津町）の小型ポンプの部で松江市消防団（忌部分団）が優勝した。
- 4月28日 第2回中国五県消防操法訓練大会（松江市）の消防署自動車ポンプの部で松江市消防署が優勝した。
- 昭和32年 4月26日 第3回県消防操法訓練大会（安来市）の小型ポンプの部で松江市消防団（忌部分団）が優勝した。
- 7月 4日 松江市防火委員会が設立された。
- 9月 3日 松江市と安来市、平田市及び八束郡各町村間で消防相互応援協定を締結した。
- 11月18日 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台の寄贈を受けた。
- 12月 9日 市街地に公設火災報知機43機を新設した。
- 昭和33年 4月28日 消防職員の定数59人となる。
- 昭和34年 4月 8日 第5回県消防操法訓練大会（木次町）の小型ポンプの部で松江市消防団（忌部分団）が優勝し、第5回中国五県消防操法訓練大会（岡山市）においても優勝した。
- 5月 8日 第5回中国五県消防操法訓練大会（岡山市）の消防署自動車ポンプの部で

- 松江市消防署が優勝した。
- 7月30日 東朝日町に松江市消防署朝日分署を新設し、水槽付消防ポンプ自動車1台を配置した。
- 昭和35年 4月 1日 消防団員定数797人となる。
- 6月27日 作業車を1台購入し、消防署に配置した。
- 8月 1日 秋鹿、大野両村と合併した。
- 消防団員定数988人となる。
- 昭和37年 6月 8日 消防職員の定数66人となる。(朝日分署要員)
- 9月11日 殿町190番地に新庁舎(旧庁舎)が完成し、消防本部、消防署を移転した。
- 12月 1日 消防本部機構改革により課制を実施した。
- 庶務課、予防課、警防課
- 昭和38年 3月22日 消防職員の定数69人となる。(望楼、予防要員)
- 3月30日 望楼(地上34m)が完成した。
- 4月 1日 消防署機構改革により係制を実施した。
- 庶務係、消防第1係、消防第2係
- 11月 7日 消防ポンプ自動車を1台購入し、本署に配置した。
- 12月10日 浜乃木町に松江市消防署浜乃木出張所を新設し、消防ポンプ自動車1台を配置した。
- 昭和39年 4月 1日 消防職員の定数75人となる。(浜乃木出張所要員)
- 5月18日 救急業務を開始するため救急自動車1台を購入し、本署に配置した。
- 7月 1日 消防職員の定数78人となる。(救急要員)
- 昭和40年 4月 1日 地方財政再建促進特別法準用団体の指定を受けるに至ったため、消防本部の3課(庶務課、予防課、警防課)を2課(庶務課、消防課)に縮小した。
- 12月22日 水槽付消防ポンプ自動車を1台購入し、本署に配置した。
- 消防ポンプ自動車を1台購入し、大庭分団へ配置した。
- 昭和41年 4月 1日 消防団員の定数939人となる。
- 島根県広域消防相互応援協定を締結した。(県下全市町村間)
- 8月12日 住友生命保険相互会社から救急自動車の寄贈を受けた。
- 11月17日 松江市初の屈折はしご付消防ポンプ自動車1台を購入し、本署に配置した。
- 昭和42年 4月 1日 消防職員の定数82人(屈折はしご付消防ポンプ自動車要員)、消防団員の定数793人となる。
- 4月24日 工作車を1台購入し、本署に配置した。
- 11月25日 危険物火災に対処するため化学消防自動車を1台購入し、本署に配置した。
- 昭和43年 4月 1日 松江市、安来市、米子市、境港市の4市間で中海臨海都市消防相互応援協定を締結した。
- 4月14日 第14回県消防操法訓練大会(江津市)の自動車ポンプの部で大庭分団が、小型ポンプの部で忌部分団(共に松江市消防団)がそれぞれ優勝し、忌部分団が全国大会に出場した。
- 7月 3日 日本消防協会から広報車の寄贈を受けた。

- 昭和44年 4月 1日 消防団員の定数766人となる。
- 6月25日 松江ロータリークラブ、南ロータリークラブから赤バイ（350cc）の寄贈を受けた。
- 昭和45年 8月17日 本署に配置の作業車を更新した。
- 12月22日 消防ポンプ自動車を1台購入し、本署に配置した。
- 昭和46年11月26日 日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、朝日分隊車を更新した。
- 昭和47年 3月29日 救急自動車を1台購入し、本署に配置した。（損保一部負担）
- 4月 1日 松江地区消防組合を設立
- 昭和47年3月3日、島根県知事の許可を得て、松江市、鹿島町、島根町、美保関町、東出雲町、八雲村、玉湯町、宍道町及び八束町の1市7町1村をもって松江地区消防組合を設立し、昭和47年度を準備年度として業務開始（昭和48年4月1日）に必要な諸施設、機械装備の整備を図った。
- 9月13日 救急艇を1隻購入し、八束町に配置した。
- 昭和48年 1月31日 救急自動車を1台購入した。（山之内製薬一部負担）
- 2月27日 救急自動車を1台購入した。（国県補助事業）
- 2月28日 東出雲町消防団が消防庁長官竿頭綬を受賞した。
- 3月26日 御津、万原、出雲郷、来待各出張所の庁舎が竣工した。
- 3月29日 消防ポンプ自動車2台、水槽付消防ポンプ自動車2台を購入した。
- 3月30日 消防本部通信室無線統制台及び無線装置、上本庄町澄水山無線基地局が完成した。
- 3月31日 救急自動車を1台購入した。
- 4月 1日 松江地区消防組合消防本部及び松江消防署を開庁し、消防業務を開始した。

（松江市からの引継職員79人）

人 員	消防本部	22人
	消 防 署	116人
	計	138人（条例定数147人）

組 織	消防本部	— 総 務 課（庶務係、経理係）
		— 予 防 課（予防係、危険物係）
		— 警 防 課（消防係、機械係）
	消 防 署	— 本 署（庶務係、消防第1係、消防第2係）
		— 朝日出張所（消防第1係、消防第2係）
		— 浜乃木出張所（消防第1係、消防第2係）
		— 大庭出張所（消防第1係、消防第2係）
		— 御津出張所（消防第1係、消防第2係）
		— 万原出張所（消防第1係、消防第2係）
		— 出雲郷出張所（消防第1係、消防第2係）
		— 来待出張所（消防第1係、消防第2係）

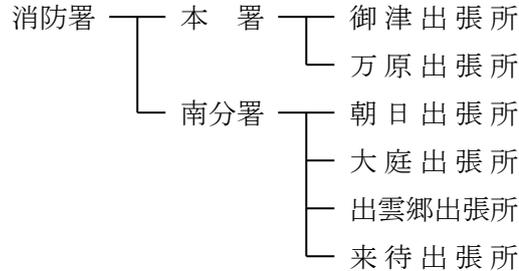
車 両	消防ポンプ自動車	6台
	水槽付消防ポンプ自動車	4台
	屈折はしご付消防ポンプ自動車	1台
	化学車	1台
	工作車	1台
	救急車	5台
	救急艇	1隻
	指揮車	1台
	その他の車両	2台

- 6月 1日 松江八東各農業協同組合から救急自動車1台の寄贈を受けた。
- 8月26日 第19回県消防操法訓練大会（石見町）の自動車ポンプの部で玉湯町消防団が優勝した。
- 12月 1日 消防救急指令装置の一部運用開始に伴い警防課の機械係を通信係に改め、7名の通信専従員を配置した。
- 12月10日 市街地の公設火災報知機を全機撤去した。
- 12月27日 軽四輪ライトバンを2台購入し、査察車として消防本部予防課に配置した。
- 昭和49年 1月16日 消防救急指令装置（B型）が完成した。
- 3月14日 日本損害保険協会から救急自動車1台の寄贈を受けた。
- 7月15日 浜乃木分隊車を更新するため、消防ポンプ自動車を購入した。
- 7月24日 タンクローリー車（10,000ℓ積み）を改造し、水槽車（7,200ℓ積み）として本署に配置した。
- 昭和50年 8月24日 第21回県消防操法訓練大会（金城町）の小型ポンプの部で松江市消防団（法吉分団）が優勝した。
- 9月17日 はしご付消防ポンプ自動車（38m級）を1台購入し、本署に配置した。（補助事業）
- 昭和51年 4月 1日 消防職員の定数153人となる。（週休要員等）
- 5月24日 指揮車を1台購入し、消防本部警防課に配置した。
- 6月 1日 住友生命相互保険会社から救急自動車1台の寄贈を受けた。
- 6月28日 事務連絡車を1台購入し、消防本部総務課に配置した。
- 7月25日 第22回県消防操法訓練大会（広瀬町）の自動車ポンプの部で玉湯町消防団が優勝し、全国大会（東京都）に出場した。
- 8月 1日 中海地区消防相互応援協定を締結した。
- 9月25日 隠岐島の救急業務の共同処理に関する覚書を交換した。
- 9月27日 水槽付消防ポンプ自動車を1台購入し、本署2分隊車を更新した。（補助事業）
- 昭和52年 1月22日 救助工作車を1台購入し、本署に配置した。（補助事業）
- 1月24日 昭和52年度を初年度とする松江地区消防組合総合計画（5ヶ年計画）を策定した。
- 2月 1日 松江市嫁島町に松江消防署南分署庁舎が完成し、業務を開始した。

なお、浜乃木出張所は1月31日をもって閉鎖した。

配置車両	消防ポンプ自動車	1台
	水槽付消防ポンプ自動車	1台
	屈折はしご付消防ポンプ自動車	1台
	救急自動車3B型	1台

南分署開設のため、松江消防署の機構を次のように改めた。



- 4月 1日 消防職員の定数165人となる。(野波出張所、分署、予防要員)
島根県下市町村及び消防にかかる一部事務組合の相互応援に関する協定を締結した。
- 4月 4日 消防本部に配置の乗用車を更新した。
- 4月21日 指揮車を1台購入し、南分署に配置した。
- 6月10日 査察車を1台購入し、予防課に配置した。
- 6月17日 普通車を1台購入し、消防業務車として八束町に配置した。
- 8月17日 激増する予防業務に対処するため、消防本部予防課に建築指導係を新設した。
- 8月29日 大庭分隊車を更新するため、消防ポンプ自動車を1台購入した。(補助事業)
野波出張所に配置するため、消防ポンプ自動車を1台購入した。(補助事業)
- 9月30日 本署に配置の水槽車を更新するため、10,000ℓ積みの小型ポンプ付水槽車を購入した。(補助事業)
- 11月 1日 八束郡島根町に松江消防署野波出張所庁舎が完成し、業務を開始した。
配置車両 消防ポンプ自動車 1台
野波出張所開設のため、松江消防署本署の機構を次のように改めた。
-
- ```
graph LR; A[本署] --- B[御津出張所]; A --- C[野波出張所]; A --- D[万原出張所];
```
- 12月13日 日本損害保険協会から救急自動車1台の寄贈を受け、野波出張所に配置した。
- 昭和53年 3月 1日 都市計画道路用地の分筆等の登記により、当組合事務所所在地の地番が殿町191番地9となる。
- 3月 6日 本署に配置の指揮車を更新した。
- 3月 7日 自治体消防制度30周年記念式典が日本武道館で開催された。
- 4月 1日 消防職員の定数168人となる。(八束出張所、予防要員)
- 9月11日 日本消防協会から救急自動車1台の寄贈を受けた。

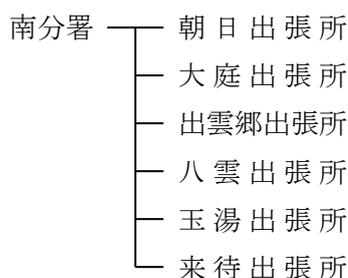
- 10月27日 水槽付消防ポンプ自動車を1台購入し、南分署第2分隊車を更新した。(補助事業)
- 昭和54年 1月 1日 消防職員の定数176人となる。(秋鹿出張所要員)
- 3月 5日 東出雲町消防団が消防庁長官表彰旗を受賞した。
- 3月17日 秋鹿出張所に配置のため、消防ポンプ自動車を1台購入した。(単独事業)
- 4月 1日 松江市秋鹿町に松江消防署秋鹿出張所庁舎が完成し、業務を開始した。
- |      |          |    |
|------|----------|----|
| 配置車両 | 消防ポンプ自動車 | 1台 |
|      | 救急自動車    | 1台 |
- 秋鹿出張所開設のため、松江消防署本署の機構を次のように改めた。
- ```

  本 署 ──┬── 秋鹿出張所
            ├── 御津出張所
            ├── 野波出張所
            └── 万原出張所
  
```
- 消防職員の定数186人となる。(宇井出張所、企画広報担当要員)
- 重要事項の総合企画並びに消防統計、消防広報等の充実を図るため消防本部総務課に企画広報係を新設した。
- 4月25日 事務連絡車を購入し、消防本部総務課に配置した。
- 5月15日 消防本部予防課の査察車を2台更新した。
- 7月29日 第25回県消防操法訓練大会(邑智町)の自動車ポンプの部、小型ポンプの部両部門で玉湯町消防団が優勝した。
- 8月 7日 省力化と住民サービスの向上を図るため、火災専用テレガイド装置を設置した。
- 9月26日 松江地区消防組合総合計画を見直し、昭和55年度を初年度とする昭和60年ビジョンの松江地区消防組合消防力整備計画を策定した。
- 12月 1日 松江地区消防音楽隊が誕生した。
- | | |
|----|---|
| 楽器 | ピッコロ1、フルート1、クラリネット3、サクソ2、トランペット3、ホルン1、ユーフォニウム1、トロンボーン2、スーザフォン1、バスドラム2、スネアドラム1、シンバル1 |
| 隊員 | 隊長1人、副隊長1人、隊員18人、計20人 |
- 昭和55年 1月30日 日本損害保険協会から救急自動車1台の寄贈を受けた。
- 3月 1日 八束郡美保関町に松江消防署宇井出張所庁舎が完成し、業務を開始した。
- 宇井出張所開設のため、松江消防署本署の機構を次のように改めた。
- ```

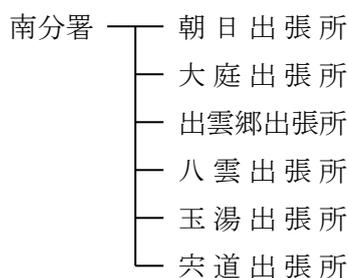
 本 署 ──┬── 秋鹿出張所
 ├── 御津出張所
 ├── 野波出張所
 ├── 万原出張所
 └── 宇井出張所

```
- 4月 1日 消防職員の定数196人となる。(玉湯・八束出張所要員)
- 組合規約の一部を変更し、分担金の支弁方法を改正した。

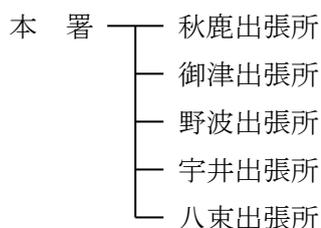




- 12月 1日 旅館、ホテルを対象とした「適」マーク制度を施行した。
- 昭和57年 2月10日 松江市消防団は、(財)日本消防協会から特別表彰「まとい」を受賞した。
- 3月16日 来待出張所を宍道町役場附近の国道沿いに移転新築し、宍道出張所と名称を改め、業務を開始した。



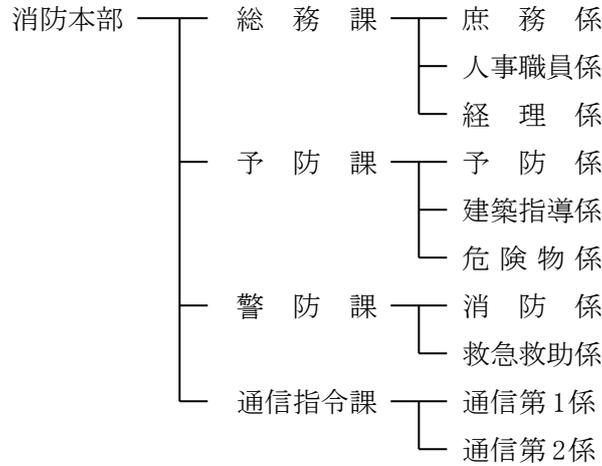
- 5月27日 消防ポンプ自動車2台を購入し、本署及び分署に配置した。(単独事業)
- 9月 7日 屈折放水塔車(16m級)1台を購入し、南分署へ配置した。(補助事業)
- 9月16日 (財)日本消防協会から救急救助用資器材搬送車の寄贈を受けた。
- 9月～10月 第37回国民体育大会「くにびき国体」・第18回身体障害者スポーツ大会「ふれあい大会」の消防警備を実施した。延人数1,120名。
- 10月30日 八束出張所と万原出張所を統合して松江消防署の機構を次のように改めた。



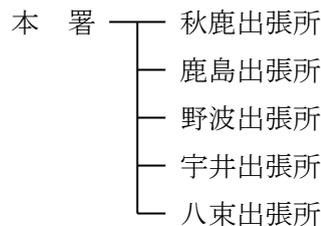
- 12月 2日～12月 5日 松江地区危険物保安協会は創立30年を記念し、「わたしとあなたの防災展」を開催した。
- 12月27日 救急自動車1台を購入し、八雲救急分隊車を更新した。(単独事業)
- 昭和58年 1月31日 日本損害保険協会から救急自動車1台の寄贈を受け、宍道救急分隊車を更新した。
- 2月10日 玉湯町消防団は、(財)日本消防協会から優良消防団として表彰旗を受賞した。
- 2月19日 (財)島根県農協共済福祉事業団から救急自動車1台の寄贈を受け、出雲郷救急分隊車を更新した。
- 2月22日 松江市防火委員会創立25周年記念大会を開催した。
- 4月 1日 消防職員の定数204人となる。(予防要員)

当組合初の婦人消防官2名を新規採用した。

松江地区消防組合消防力整備計画に基づき、消防本部の組織を次のように改めた。



- 5月10日 組合消防発足10周年記念行事を挙行政した。
- 7月21日 作業用自動車1台を購入し、本署作業車を更新した。
- 9月1日 映画館、集会場、百貨店等を対象に「適」マーク制度を拡大した。
- 9月5日 化学消防ポンプ自動車1台を購入し、本署へ配置した。(補助事業)
- 11月16日 (財)日本防火協会から松江市防火委員会へ防火広報車の寄贈を受けた。
- 11月22日 自治体消防35周年記念大会が日本武道館において開催された。
- 12月26日 本部指揮車を更新した。
- 昭和59年 2月10日 宍道町消防団は、(財)日本消防協会から優良消防団として表彰旗を受賞した。
- 3月29日 水槽付消防ポンプ自動車1台を購入し、出雲郷消防分隊車を更新した。(補助事業)
- 7月22日 第28回県消防操法訓練大会(安来市)の自動車ポンプの部で鹿島町消防団が優勝し、全国大会(横浜市)においても10位に入賞した。
- 8月24日 (財)日本消防協会から救急自動車1台の寄贈を受け、御津救急分隊車を更新した。
- 10月12日 御津分隊消防ポンプ自動車1台を購入した。(補助事業)
- 11月30日 スノーモービル1台を購入し、本部へ配置した。
- 昭和60年 3月13日 御津出張所を鹿島町役場附近に移転新築し、松江消防署鹿島出張所と名称を改め、業務を開始した。

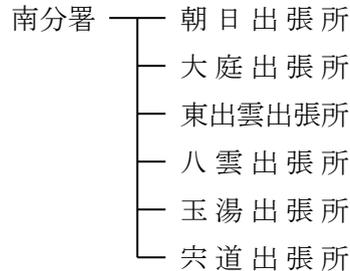


- 5月1日 浜田市、平田市、大社町及び消防にかかる一部事務組合の救急業務に関する相互応援協定を締結した。
- 8月8日 (財)日本消防協会から救急自動車1台の寄贈を受け、玉湯救急分隊車を更新

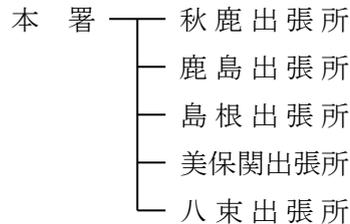
した。

9月22日 第29回県消防操法訓練大会（江津市）の小型ポンプの部で東出雲町消防団が優勝した。

昭和61年 2月25日 出雲郷出張所を東出雲町役場横に移転新築し、松江消防署東出雲出張所と名称を改め、業務を開始した。



4月 1日 東出雲出張所を移転新築し、名称を変更したことに伴い、野波、宇井の各出張所もそれぞれ松江消防署島根、美保関出張所と改めた。



8月 1日 (財)日本消防協会から電源照明車の寄贈を受け、本署に配置した。

12月 9日 消防ポンプ自動車1台を購入し、島根消防分隊車を更新した。(単独事業)

12月26日 日本自動車工業会から救急自動車型1台の寄贈を受け、島根救急分隊車を更新した。

昭和62年 2月10日 玉湯町消防団は、(財)日本消防協会から特別表彰「まとい」を受賞した。

10月20日 松江市防火委員会創立30周年記念大会を開催した。

10月30日 業務車を購入し、警防課に配置した。

11月19日 査察車、事務連絡車各1台を更新した。

11月28日 松江地区消防音楽隊第1回演奏会「消防ふれあいコンサート'87」を開催した。

12月10日 島根県防災行政無線が当消防本部に設置された。

昭和63年 3月 9日 自治体消防制度40周年記念式典が日本武道館で開催された。

5月31日 消防本部に配置の乗用車を更新した。(単独事業)

8月21日 県消防操法訓練大会で、東出雲町消防団は小型ポンプの部において優勝した。

9月28日 南分署の指揮車を更新した。(単独事業)

10月26日 第4回全国婦人消防操法大会（横浜市）に、畑婦人消防隊（東出雲町）が出場した。

11月30日 移動無線ファクシミリ装置を本部、本署及び南分署の指揮車3台に搭載し、基地局を通信指令課に配置した。

- 12月23日 救助工作車を更新した。(補助事業)
- 平成元年 3月20日 西川津町1570番地1に新庁舎が完成し、消防本部・消防署を移転、業務を開始した。これに伴い至近距離となった朝日出張所を統合した。また、庁舎の建設に合わせ消防緊急情報システムを導入し、運用を開始した。
- 3月29日 消防ポンプ自動車の贈呈式を挙行了。(社)日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、本署に配置した。
- 4月 1日 行政改革の施策により、松江地区消防組合、松江地区環境衛生組合及び松江八束保健防疫組合を解散し、新たに松江地区広域行政組合を設立し、業務を開始した。
- 6月15日 通信指令課の業務車を更新した。(単独事業)
- 8月16日 島根県防災行政無線用ファクシミリ装置が当消防本部に設置された。
- 8月19日～ 8月20日 松江地区少年婦人防火委員会・日本防火協会・松江地区危険物保安協会・松江湖城ライオンズクラブの共催により「親子でたのしむ消防体験大会」を開催した。
- 9月 2日 松江地区消防音楽隊創立10周年記念演奏会を開催した。
- 11月 9日 全国火災予防運動実施時期・期間が変更され、平成元年秋から実施された。
- [ 春の全国火災予防運動 3月 1日～ 3月 7日
- [ 秋の全国火災予防運動 11月 9日～11月15日
- 平成 2年 2月21日 救急自動車1台を購入し、秋鹿救急分隊車を更新した。(補助事業)
- 3月 3日 山陰ケーブルビジョン(株)から防火広報車の寄贈を受け、予防課に配置した。
- 3月12日 消防ポンプ自動車1台を購入し、大庭消防分隊車を更新した。(補助事業)
- 4月 1日 消防職員の定数206人となる。(週休要員)
- 松江消防署の組織を一部改正し、本署及び分署に課制を採用した。
- 7月29日 第34回県消防操法訓練大会(東出雲町)の小型ポンプの部で東出雲町消防団が優勝した。
- 8月19日 松江地区少年婦人防火委員会・松江地区危険物保安協会・松江湖城ライオンズクラブの共催により「親子でたのしむ消防体験大会'90」を開催し、来場者は約4,500人を数えた。
- 8月19日～ 8月23日 島根県と韓国慶尚北道の姉妹提携並びに国際防災10年の初年に当たり、県下消防関係者が韓国各地を訪問した。
- 10月24日 第4回全国婦人消防操法大会(横浜市)に森脇婦人消防隊(松江市)が出場し、敢闘賞を受賞した。
- 10月27日 島根県共済農業協同組合連合会から救急自動車の寄贈を受け、南分署救急分隊車を更新した。
- 11月26日～12月 1日 姉妹都市の宝塚市消防本部に職員2名を派遣し、警防・救急業務両面にわたって交流をはかった。

- 11月30日 消防ポンプ自動車を購入し、秋鹿消防分隊車を更新した。(補助事業)
- 12月12日 救急自動車を購入し、美保関救急分隊車を更新した。(単独事業)
- 平成 3年 1月27日 消防団の活性化対策事業として松江市消防団分団対抗綱引大会を開催した。(優勝/朝酌分団)
- 4月 1日 消防職員の定数208人となる。
- 5月15日 事務連絡・査察車各1台を更新した。
- 8月17日～8月18日  
松江地区少年婦人防火委員会・松江地区危険物保安協会・松江湖城ライオンズクラブの共催により「親子でたのしむ消防体験大会'91」を開催し、市民と交流を図った。
- 8月25日 第35回県消防操法訓練大会で、宍道町消防団はポンプ車の部において準優勝し、島根町消防団は小型ポンプの部において3位に入賞した。
- 8月26日～平成 4年 3月14日  
救急救命士を養成するため、救急救命中央研修所に職員1名を派遣した。
- 10月13日 松江市消防団は第5次特別検閲を受検し、成績優秀として表彰旗を受賞した。
- 11月13日 消防ポンプ自動車を購入し、美保関消防分隊車を更新した。(補助事業)
- 平成 4年 2月25日 (社)日本自動車工業会から救急自動車1台の寄贈を受け、八束救急分隊車を更新した。
- 3月19日 救急高度化推進事業の施策により高規格救急車を購入し、本署救急分隊車を更新した。これに合わせ救急普及啓発広報車・救命処置訓練用資器材を購入整備した。(補助事業)
- 5月15日 松江消防に初の救急救命士が誕生した。
- 8月28日 第21回中国地区消防救助技術指導会で優勝した障害突破チームは、千葉市において行われた第21回全国消防救助技術大会に出場した。
- 8月30日 第36回県消防操法訓練大会で玉湯町消防団はポンプ車の部において優勝し、松江市消防団竹矢分団は小型ポンプの部において3位に入賞した。
- 11月15日 島根県消防団対抗綱引大会で松江市消防団朝酌分団が準優勝した。
- 平成 5年 2月26日 はしご付消防自動車(38m級)を購入し、北4分隊車を更新した。(補助事業)
- 3月25日 救急自動車を購入し、宍道救急分隊車を更新した。(単独事業)
- 3月29日 救急高度化推進事業の施策により高規格救急車を購入し、南救急分隊車を更新した。(単独事業)これに合わせ救急処置用資器材を購入整備した。(補助事業)
- 4月 1日 消防職員の定数212人となる。  
消防本部の組織を一部改正し、課長補佐制を採用して機構の充実を行った。  
消防署の組織を一部改正し、出張所に副所長制を採用して構成町村との連携強化を図った。
- 7月 1日 松江地区危険物保安協会設立40周年記念式典を開催した。

- 松江地区危険物保安協会から査察車の寄贈を受け、予防課に配置した。
- 8月 1日 第37回県消防操法訓練大会で玉湯町消防団はポンプ車の部において優勝し、宍道町消防団は準優勝した。
- 10月 1日 松江市消防団に初の女性消防団員が2名入団した。
- 平成 6年 3月17日 救急自動車を購入し、八雲救急分隊車を更新した。(単独事業)
- 3月25日 消防ポンプ自動車を購入し、八束消防分隊車を更新した。(補助事業)
- 水槽付消防ポンプ自動車2台を購入し、南分署2分隊車と玉湯消防分隊車を更新した。(補助事業)
- 3月31日 資機材搬送車を購入し、庶務課に配置した。(単独事業)
- 4月 1日 消防職員の定数216人となる。
- 7月21日 (財)日本防火協会から広報車の寄贈を受け、予防課に配置した。
- 8月 7日 第38回県消防操法訓練大会で玉湯町消防団はポンプ車の部で優勝した。
- 8月18日 (財)日本消防協会から救急自動車の寄贈を受け、救急予備車を更新した。
- 8月25日 第23回中国地区消防救助技術指導会で優勝した障害突破チームは、京都市において行われた第23回全国消防救助技術大会に出場した。
- 8月29日 松江市黒田町、松浦嘉昭氏から業務車の寄贈を受け、庶務課に配置した。
- 10月25日 人員輸送車を更新した。(単独事業)
- 平成 7年 1月17日～ 1月22日 阪神・淡路大震災で被災した神戸市に隊数6隊、人員28名、車両6台(延べ)の応援隊を派遣した。
- 2月22日 消防ポンプ自動車を購入し、八雲消防分隊車を更新した。(補助事業)
- 3月24日 救急自動車2台を購入し、鹿島救急分隊車と東出雲救急分隊車を更新した。(単独事業)
- 4月 1日 消防職員の定数220人となる。
- 6月30日 国内における大規模災害に対応すべく、救助部隊・救急部隊・消火部隊・後方支援部隊及び指揮支援部隊からなる緊急消防援助隊が編成され、当消防本部からも発足式に参加した。
- 11月28日～11月29日 東京で実施された緊急消防援助隊発足後初の合同訓練に救急部隊として本署救急隊(隊員3名)が参加した。
- 12月 1日 高齢者対策の一環として、消防本部内に緊急通報センターを設置し、高齢者等緊急通報システムの運用を開始した。
- 平成 8年 3月22日 消防ポンプ自動車2台を購入した。また、緊急消防援助隊参加のための特別救助隊創設をふまえて救助工作車Ⅲ型、支援車を購入した。
- 3月27日 安田生命保険相互会社から高規格救急車1台の寄贈を受け、本署に配備した。
- 3月28日 生活協同組合全日本消防人共済会から指揮車の寄贈を受け、南指揮車を更新した。

4月 1日 「視聴覚ライブラリー事業」の一部事務複合化、「ふるさと市町村圏」の選定及び「ふるさと市町村圏基金」設立をうけ、これらの事務を行うため、新たに組合構成市町村へ安来市、能義郡（2町）、仁多郡（2町）及び大原郡（3町）が加わり、新たな松江地区広域行政組合として業務を開始した。消防本部の組織を一部改正し、庶務課に人事職員係を新設、予防課危険物係を危険物保安係に改称、通信指令課を通信指令1課・通信指令2課の2課制とし、機構の充実を行った。

10月 1日～10月 2日

島根県及び島根県消防長会の主催により、日赤中四国各県支部、東出雲町、松江市・東出雲町の両消防団、島根県防災航空隊、広島消防局の参加を得、東出雲町錦浜において初の島根県内緊急消防援助隊合同訓練が実施された。

12月 3日 大規模災害発生時の被害状況の早期把握と迅速な災害対応を図るため、松江市において全国の自治体で22番目となる通信衛生「スーパーバード」による映像伝送システムの運用を開始し、市内の約80%の監視が可能となった。

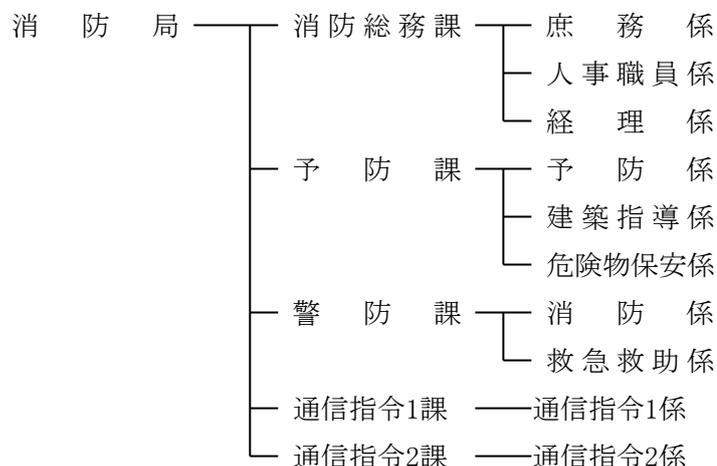
平成 9年 1月16日～ 1月17日

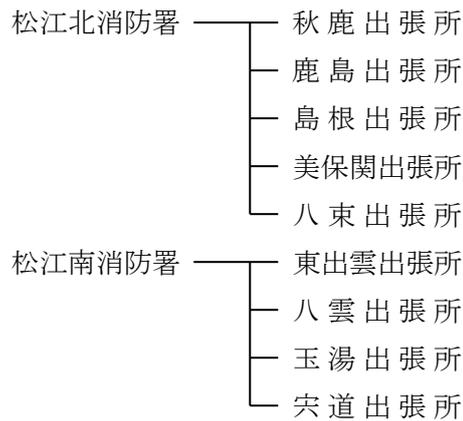
広島市において実施された中国ブロック緊急消防援助隊合同訓練に指揮隊、救助隊、後方支援隊として13名が参加した。

1月30日 水槽付消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ付水槽車を購入し、宍道分隊車及び本署配備の水槽車を更新した。（補助事業）

4月 1日 島根県知事の権限移譲により、火薬類取締法、高圧ガス保安法及び液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律に基づく知事権限の一部が市町村長に委任され、消防本部で事務を行うこととなった。

7月 1日 橋南地区の防災拠点として矢田町大字大谷524番地3に新庁舎が完成し、南分署及び大庭出張所を統廃合し松江南消防署として業務を開始した。これに伴い、消防本部を消防局に改組、本署を松江北消防署として南北2署体制を整えた。また、庶務課を消防総務課に改称、主幹・主査制を採用し機構の充実を行った。





- 平成10年 1月16日 島根県共済農業協同組合連合会から救急自動車の寄贈を受け、島根出張所に配備した。  
併せて、拡大9項目対応の救急資器材2式を島根及び南救急2号車に整備したことにより、当消防局の救急高度化整備事業は完了した。
- 3月 7日 日本武道館で開催された自治体消防発足50周年記念式典に参加及び全国消防職員綱引き大会に中国地区代表として出場し敢闘賞を受賞した。
- 7月21日 携帯電話からの119番通報を県内4ブロックに分割し、代表消防本部として119番通報を受信するシステムの運用を開始した。
- 平成11年 1月25日 消防ポンプ自動車2台を購入し、島根消防分隊車及び鹿島消防分隊車を更新した。(補助事業)
- 7月 1日 機構改革により名称を「松江地区広域行政組合消防局」から「松江地区広域行政組合消防本部」へ改めた。
- 10月31日 地震・風水害・その他の災害により発生した火災・水難救助事故に対し消防業務を円滑に実施するために、宍道湖漁業協同組合と業務協定を締結した。
- 平成12年 2月18日 (財)日本消防協会から防災広報車の寄贈を受け、予防課に配置した。
- 平成13年 2月13日 山陰道(自動車専用道路)が平成13年3月24日開通することに伴い、松江玉造インターチェンジから宍道インターチェンジ間の消防業務を円滑に実施するために、日本道路公団中国支社長と覚書を交わした。
- 3月12日 水槽付消防ポンプ自動車1台を(株)日本損害保険協会から寄贈を受け、東出雲消防分隊車を更新した。  
原子力防災対策の強化を図るため、資機材搬送車が島根県から寄託され、松江北消防署に配備した。
- 3月23日 山陰道(自動車専用道路)が平成13年3月24日開通することに伴い、安来から東出雲間の消防業務を円滑に実施するために、安来市能義郡消防組合と消防相互応援協定を締結した。
- 4月 1日 機構改革により、消防本部「通信指令1課、通信指令2課」を「通信指令課」に改めた。
- 5月 7日 警防課指令車を松江ライオンズクラブから寄贈を受け更新した。

7月16日～12月20日

消防署所再編問題について調査検討する第三者機関として「松江地区広域行政組合消防力整備検討委員会」を設置した。8回の委員会を開催し、「消防力整備のあり方に関する報告書」が取りまとめられた。

平成14年 3月28日

近年輻輳する災害需要に応えるため、消防緊急通信指令システムを更新、整備するとともに、消防無線中継局間の多重無線の周波数変更を実施した。

7月 8日

「消防力整備実施計画」「署所再編5か年計画」を策定した。

平成15年 2月25日

救急自動車2台を購入し、美保関救急分隊車を更新した。

3月10日

中国横断自動車道松江線の松江自動車道開通に伴い、消防・救急業務を円滑に行うため、木次町外9町村消防組合と協定を締結した。

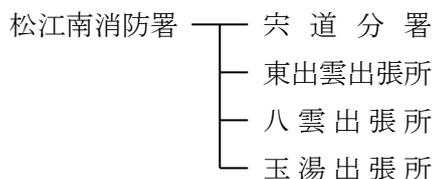
3月17日

高規格救急自動車1台を購入し、南救急1号車を更新した。

8月20日

署所再編計画に基づき、宍道インターチェンジ附近に松江南消防署宍道分署が完成、併せて高規格救急車を配備し業務を開始した。なお、宍道出張所は閉鎖した。

|      |             |    |
|------|-------------|----|
| 配備車両 | 消防ポンプ自動車    | 1台 |
|      | 水槽付消防ポンプ自動車 | 1台 |
|      | 高規格救急自動車    | 1台 |
|      | 救急自動車       | 1台 |



11月20日

自治体消防55周年記念式典が東京ドームで開催された。

12月12日

水槽付消防ポンプ自動車1台を購入し、北2分隊車を更新した。

(財)日本消防協会より松江市に緊急消防自動二輪車(赤バイ)が3台支給され、松江北消防署に配備した。

平成16年 1月21日

救急自動車1台を購入し、秋鹿救急分隊車を更新した。

1月30日

原子力防災対策の強化を図るため指揮車が島根県から寄託され、松江北消防署に配備した。

3月19日

はしご付消防ポンプ自動車(30m級)1台を購入し、松江南消防署に配備した。

11月6日

松江地区消防音楽隊発足25周年記念演奏会を開催した。

11月26日

救急自動車1台を購入し、八束救急分隊車を更新した。

12月20日

救助工作車Ⅱ型1台を購入し、北救助工作車を更新した。

平成17年 1月14日

高規格救急自動車1台を購入し、北救急1号車を更新した。

2月24日

AED11台を配備し運用開始した。

3月30日

松江地区広域行政組合を解散した。

3月31日

松江市、鹿島町、島根町、美保関町、八雲村、玉湯町、宍道町、八束町の合併により新松江市が誕生し、松江市消防本部が発足した。

消防職員の定数が240人となる。

消防団の体制は、8つの消防団による連合消防団方式を採用。消防団員の定数が2,083人となる。

- 12月21日 高規格救急自動車2台を購入し、北救急1号車、南救急1号車をそれぞれ更新した。
- 平成18年 3月28日 新市消防団に対する災害情報伝達のスピードアップを図るため「松江市消防団災害出動検索システム」を導入し、4月1日から運用を開始した。
- 3月31日 「消防力整備実施計画」に基づき、「署所再編実施後期計画」を策定した。
- 8月 5日 資器材搬送車1台を購入し、松江北消防署に配備した。
- 平成19年 1月 1日 指揮命令系統の一元化を図るため、8つの消防団の連合体を1つにし、新松江市消防団が発足した。
- 1月31日 高規格救急自動車2台を購入し、鹿島救急分隊車、八雲救急分隊車をそれぞれ更新した。
- 消防ポンプ自動車1台を購入し、秋鹿消防分隊車を更新した。
- 4月 1日 国の指定により、「高度救助隊」を設置した。
- 5月 1日 化学消防ポンプ自動車1台を購入し、松江市南消防署に配備した。
- 11月 1日 松江市消防団協力事業所表示制度を導入した。
- 平成20年 1月30日 高規格救急自動車1台を購入し、玉湯救急分隊車を更新した。
- 3月 1日 消防ポンプ自動車1台を購入し、玉湯消防分隊車を更新した。
- 12月24日 高規格救急自動車1台を購入し、東出雲救急分隊車を更新した。
- 平成21年 1月 6日 松江市消防出初式において、松江市消防団に21名の本部付女性班「カメラア隊」が発足した。
- 3月11日 「携帯電話・IP電話発信位置情報通信システム」を導入し、3月11日から運用を開始した。
- 3月24日 消防ポンプ自動車1台を購入し、美保関消防分隊車を更新した。
- 4月 1日 署所再編計画に基づき、松江市立病院隣接地に松江市南消防署湖南出張所が完成、高規格救急車を配備し運用を開始した。なお、玉湯出張所は閉鎖した。
- |      |          |    |
|------|----------|----|
| 配備車両 | 消防ポンプ自動車 | 1台 |
|      | 高規格救急自動車 | 1台 |
- 松江市南消防署
- 宍道分署
  - 湖南出張所
  - 八雲出張所
  - 東出雲出張所
- 11月27日 資機材搬送車1台を購入し、松江市南消防署に配備した。
- 12月18日 化学消防ポンプ自動車1台を購入し、松江市北消防署に配備した。
- 平成22年 1月30日 松江市消防音楽隊発足30周年記念演奏会を開催した。
- 4月 1日 松江市が国際消防救助隊編成協力市町村の登録を受け、隊員6名を登録した。

- 平成23年 1月12日 総務省消防庁より、緊急消防援助隊の活動、または消防活動を支援するための車両として、支援車が配備された。
- 3月 8日 全国共済農業協同組合連合会島根県本部、並びに、くにびき農業協同組合により、高規格救急車1台の寄贈を受けた。
- 3月12日～3月20日 東北地方太平洋沖地震発生に伴い、緊急消防援助隊島根県隊として1次隊、2次隊で8隊延べ34名を宮城県仙台市へ派遣した。
- 8月 1日 松江市と東出雲町が合併し、松江市消防団10方面団の体制となり、定数が2,255人となる。
- 10月19日 松江市消防団女性班が、横浜市で開催された全国女性消防操法大会に出場し、優良賞（10位）を受賞した。
- 平成24年 1月 5日 高度救助隊の愛称募集を行い、選考の結果「SUPER RESCUE MATSUE」（スーパーレスキュー松江）に決定した。
- 1月25日 高規格救急自動車1台を購入し、美保関救急分隊車を更新した。
- 3月 1日 松江赤十字病院との共同事業により、ドクターカー運用（救急車への医師同乗）を試行的に開始した。
- 3月26日 救助工作車Ⅲ型1台を購入し、南救助工作車を更新した。
- 5月29日 総務省消防庁から緊急消防援助隊無償使用車両として指揮隊車を受領した。
- 平成25年 2月28日 松江赤十字病院とのドクターカー試行的運用を終了した。
- 消防ポンプ自動車1台を購入し、南1分隊車を更新した。
- 3月 4日 財団法人日本消防協会から、松江市消防団に防災広報車の交付を受けた。
- 3月 8日 総務省消防庁から緊急消防援助隊無償使用車両として重機及び搬送車を受領し、特殊装備部隊として登録した。これにより緊急消防援助隊の登録隊数は13隊、登録人員51名となった。
- 3月15日 消防救急デジタル無線の共通波を整備した。
- 3月29日 迅速な初動体制の確立、現場到着までの時間短縮及び大規模災害への対応強化を図るため、高機能消防指令センターを整備した。
- 3月31日 署所再編計画に基づき、松江市北消防署東部分署が完成したため、美保関出張所及び八束出張所を閉鎖した。
- 4月 1日 署所再編計画に基づき、松江市美保関町下宇部尾に松江市北消防署東部分署が完成し、高規格救急車を配備し運用を開始した。
- |      |             |    |
|------|-------------|----|
| 配備車両 | 消防ポンプ自動車    | 1台 |
|      | 水槽付消防ポンプ自動車 | 1台 |
|      | 高規格救急自動車    | 2台 |
- 松江市北消防署 — 東部分署  
— 秋鹿出張所  
— 鹿島出張所
- 消防本部警防課に内室として「救急室」を新設した。
- 平成26年 2月28日 消防ポンプ自動車1台を購入し、北1警防隊車を更新した。

- 3月 7日 水槽付消防ポンプ自動車1台を購入し、宍道2 警防隊車を更新した。
- 3月31日 松江市北消防署島根出張所を閉鎖した。
- 4月 1日 消防本部通信指令課を3 係制とした。
- 8月 2日～8月3日  
松江市において、第66回島根県消防大会、第58回島根県消防操法大会が開催された。
- 8月22日～8月30日  
豪雨による広島市土砂災害発生に伴い、緊急消防援助隊島根県大隊として1 次隊から4次 隊まで10隊延べ44名を広島県広島市へ派遣した。
- 10月29日 日本消防協会から松江市消防団に、消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図ることを目的に開発された消防団防災学習・災害活動車両が交付され、消防総務課に配備した。
- 12月 5日 高規格救急自動車1 台を購入し、秋鹿救急隊車を更新した。
- 12月19日 消防職員の定数が260人となる。
- 平成27年 2月26日 消防ポンプ自動車1 台を購入し、東部1 警防隊車を更新した。
- 4月 1日 松江市消防団本部付女性班（カメラ隊）を松江市消防団本部付女性分団（カメラ隊）へ移行し、団本部の体制を改めた。
- 8月 9日 第59回島根県消防操法大会ポンプ車の部で松江市消防団玉湯方面団が優勝し、第25回全国消防操法大会への出場権を得た。
- 平成28年 2月 8日 はしご付消防自動車（30m級）1 台を購入し、北はしご車を更新した。
- 3月30日 原子力防災対策の強化を図るため査察車2台が島根県から寄託され、松江市北消防署及び松江市南消防署に配備した。
- 3月31日 原子力防災対策の強化を図るため特殊災害対策車が島根県から寄託され、松江市南消防署に配備した。  
署所再編計画に基づき、松江市南消防署南部分署が完成したため、東出雲出張所及び八雲出張所は閉鎖した。
- 4月 1日 松江市八雲町東岩坂に松江市南消防署南部分署が完成し、高規格救急車を配備し運用を開始した。

|      |             |    |
|------|-------------|----|
| 配備車両 | 消防ポンプ自動車    | 1台 |
|      | 水槽付消防ポンプ自動車 | 1台 |
|      | 高規格救急自動車    | 2台 |



消防本部警防課に「特殊災害対策係」を新設した。

4月16日～4月22日

熊本地方を震源とする地震（4月14日（前震）、16日（本震））の発生に伴い、緊急消防援助隊島根県統合機動部隊として、1次隊から3次隊まで3隊延べ42名を熊本県熊本市及び南阿蘇村に派遣した。

- 10月14日 長野県長野市で開催された第25回全国消防操法大会に島根県代表として出場した松江市消防団玉湯方面団が、ポンプ車の部で優勝した。(ポンプ車の部において島根県勢初優勝)
- 11月 8日 高規格救急自動車1台を購入し、北救急1号車を更新した。
- 平成29年 2月 6日 高規格救急自動車1台を購入し、南救急1号車を更新した。
- 4月 1日 北消防署に「予防管理課」を新設した。
- 10月20日～10月21日 中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練を松江市と安来市で開催した。
- 11月24日 高規格救急自動車1台を購入し、鹿島救急1号車を更新した。
- 12月15日 日本消防協会から松江市消防団に、日本消防協会消防団員福祉共済制度等の福祉増進、振興及び還元事業の一環として、防災活動車が交付され、消防総務課に配備した。
- 平成30年 3月20日 水槽付ポンプ車1台を購入し、南部2警防隊車を更新した。
- 4月 1日 外国人からの119番対応及び現場対応に備えて、多言語電話通訳サービスの運用を開始した。
- 7月 7日～7月15日 西日本を中心に発生した平成30年7月豪雨による土砂災害発生に伴い、緊急消防援助隊島根県大隊として、1次隊から4次隊まで延べ63名を呉市へ派遣した。
- 10月22日 原子力災害対策の強化を図るため、放射線防護対策として、消防本部庁舎の隣接地に陽圧浄化ユニット、除染施設、原子力災害対策資機材保管庫及び車庫を備えた陽圧装置棟を増築し、非常用発電機(455kVA:72時間)及びオイルタンク設置のための発電機棟を新築した。
- 平成31年 1月26日 高規格救急自動車1台を購入し、湖南救急車を更新した。
- 3月10日 高規格救急自動車1台を購入し、東部救急2号車を更新した。
- 令和元年 7月27日 松江市消防団が島根県消防表彰「表彰旗」を受賞した。
- 11月13日 松江市消防団本部付女性分団(カメラ隊)が、横浜市で開催された全国女性消防操法大会に出場した。
- 12月12日 高規格救急自動車2台を購入し、北救急2号車及び南部救急2号車を更新した。
- 令和2年 2月 1日 松江市消防音楽隊発足40周年記念演奏会を開催した。
- 4月 1日 消防本部消防総務課に内室として「消防団室」を新設した。  
北消防署の「予防管理課」を「予防査察課」に名称変更した。
- 令和2年 11月19日 高規格救急自動車1台を購入し、南救急2号車を更新した。
- 令和3年 3月 5日 松江市消防団が(財)日本消防協会から優良消防団として竿頭綬を受賞した。
- 令和3年 3月26日 水槽付ポンプ車1台を購入し、北部2警防隊車として運用を開始した。
- 令和3年 9月30日 署所再編計画に基づき、松江市北消防署北部分署が完成したため、鹿島出張所及び秋鹿出張所を閉鎖した。

- 高規格救急自動車1台を購入し、南部救急1号車を更新した。
- 令和3年 10月 1日 松江市西長江町に松江市北消防署北部分署が完成し、高規格救急車を配備し運用を開始した。
- |      |             |    |
|------|-------------|----|
| 配備車両 | 消防ポンプ自動車    | 1台 |
|      | 水槽付消防ポンプ自動車 | 1台 |
|      | 高規格救急自動車    | 2台 |
- 松江市北消防署 ─┬─ 北 部 分 署  
                  └─ 東 部 分 署
- 署所再編計画に基づき、宍道分署の名称を西部分署に改めた。
- これをもって、平成14年に策定した消防力強化実施計画に基づく、署所再編計画はすべて完了した。
- 令和4年 3月23日 水槽付ポンプ車1台を購入し、南2警防隊車を更新した。
- 令和4年 4月 1日 消防本部警防課の警防救助係と特殊災害対策係を統合し、災害対策係に名称を変更した。
- 北消防署、南消防署の消防一課と消防二課を消防課に改め、消防課に統括司令及び副統括を配置した。
- 消防職員の定数が270人となる。
- 「消防力整備実施計画」「消防団充実強化計画」を策定した。
- 令和5年 4月 1日 松江市消防団員の定数を1,970人とした。
- 令和5年 9月29日 総務省消防庁から緊急消防援助隊無償使用車両として小型救助車を受領し、特殊装備小隊として登録した。
- 令和5年 10月27日 高規格救急自動車1台を購入し、西部救急1号車を更新した。
- 令和6年 4月 1日 はしご付消防自動車（25m級）1台を購入し、南はしご車を更新した。
- 令和7年 1月 8日 高規格救急自動車1台を購入し、北救急1号車を更新した。
- 令和7年 3月10日 水槽付ポンプ車1台を購入し、東部2警防隊車を更新した。
- 令和7年 4月 1日 高機能消防指令センターを更新整備し、運用を開始した。
- 北消防署の「予防査察課」を廃止し、消防本部予防課に内室として「査察室」を新設した。

# 歴代消防管理者

| 区 分          |    | 氏 名       | 就任年月日       | 備 考     |
|--------------|----|-----------|-------------|---------|
| 松 江 市        | 初代 | 小 林 誠 一   | 昭和22年4月9日   | 6代松江市長  |
|              | 2代 | 熊 野 英     | 昭和26年8月2日   | 7代松江市長  |
|              | 3代 | 斉 藤 強     | 昭和38年3月24日  | 8代松江市長  |
| 松江地区<br>消防組合 | 初代 | 斉 藤 強     | 昭和48年4月1日   | 8代松江市長  |
|              | 2代 | 中 村 芳 二 郎 | 昭和52年10月24日 | 9代松江市長  |
| 松江地区<br>行政組合 | 初代 | 中 村 芳 二 郎 | 平成元年4月1日    | 9代松江市長  |
|              | 2代 | 石 倉 孝 昭   | 平成元年10月23日  | 10代松江市長 |
|              | 3代 | 宮 岡 寿 雄   | 平成5年10月23日  | 11代松江市長 |
|              | 4代 | 松 浦 正 敬   | 平成12年6月19日  | 12代松江市長 |
| 松 江 市        | 初代 | 松 浦 正 敬   | 平成17年4月24日  | 初代松江市長  |
|              | 2代 | 上 定 昭 仁   | 令和3年4月26日   | 2代松江市長  |

# 歴代消防長

| 区 分                    | 氏 名 | 就任年月日     | 備 考        |
|------------------------|-----|-----------|------------|
| 松江市<br>消防本部            | 初代  | 野 津 乙 三 郎 | 昭和24年4月1日  |
|                        | 2代  | 高 尾 幸 吉   | 昭和24年8月1日  |
|                        | 3代  | 酒 井 松 義   | 昭和26年9月18日 |
|                        | 4代  | 熊 谷 寿 郎   | 昭和27年8月11日 |
|                        | 5代  | 曾 田 堯     | 昭和33年6月1日  |
|                        | 6代  | 中 川 幾 作   | 昭和37年6月1日  |
| 松江地区<br>消防組合<br>消防本部   | 初代  | 中 川 幾 作   | 昭和48年4月1日  |
|                        | 2代  | 後 藤 照 夫   | 昭和51年4月1日  |
|                        | 3代  | 雪 吹 誠     | 昭和53年4月1日  |
|                        | 4代  | 山 根 尚 典   | 昭和59年6月1日  |
|                        | 5代  | 成 瀬 清 美   | 昭和61年11月1日 |
|                        | 6代  | 安 部 博 之   | 昭和63年4月1日  |
| 松江地区<br>広域行政組合<br>消防本部 | 初代  | 近 藤 明 男   | 平成元年4月1日   |
|                        | 2代  | 伊 藤 孔 識   | 平成4年4月1日   |
| 松江地区<br>広域行政組合<br>消防局  | 初代  | 伊 藤 孔 識   | 平成9年7月1日   |
|                        | 2代  | 松 尾 邦 明   | 平成10年4月1日  |
| 松江地区<br>広域行政組合<br>消防本部 | 初代  | 松 尾 邦 明   | 平成11年7月1日  |
|                        | 2代  | 板 垣 信 治   | 平成14年4月1日  |
|                        | 3代  | 柳 原 知 朗   | 平成16年4月1日  |
| 松江市<br>消防本部            | 初代  | 柳 原 知 朗   | 平成17年3月31日 |
|                        | 2代  | 宅 和 勝 美   | 平成21年6月1日  |
|                        | 3代  | 林 繁 幸     | 平成22年4月1日  |
|                        | 4代  | 石 飛 秀 人   | 平成23年4月1日  |
|                        | 5代  | 坂 本 茂 利   | 平成26年4月1日  |
|                        | 6代  | 舟 木 宏     | 平成27年4月1日  |
|                        | 7代  | 渡 部 正 夫   | 平成28年4月1日  |
|                        | 8代  | 菅 井 公 治   | 平成29年4月1日  |
|                        | 9代  | 金 村 保 正   | 平成31年4月1日  |
|                        | 10代 | 堀 江 剛     | 令和2年4月1日   |
|                        | 11代 | 田 村 達 朗   | 令和4年4月1日   |
|                        | 12代 | 井ノ下 秀 彦   | 令和6年4月1日   |